

POSデータ分析と運用実務への応用可能性について —オルタナティブデータの整理を踏まえた上で、 POSデータの活用実務について—

吉野 貴晶 CMA
山本 裕大

目 次

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. オルタナティブデータの分類について | 4. POSデータを使った製品数と株式リターン |
| 2. POSデータの概要と先行研究について | 5. おわりに |
| 3. POSデータの具体的な活用方法 | |

本稿では、オルタナティブデータを実務で使う場合に、①データの特徴を捉えて、②利用の目的と、③ユーザーの設定の整理が重要であることを示す。そして、POSデータに関して、これらの三つの観点で整理した上で、企業アナリスト向けに、売上高の予測につながる利用例を紹介する。また、クオンツ運用向けには、JANコード数の変動係数を使った、アクティブリターンの源泉につながる実証分析を紹介する。オルタナティブデータには留意点もあるが、新しいアルファの源泉であるだけに、様々な問題をクリアして、効果的なモデル化を行うことで、将来に向けて高いアクティブリターンが期待できるアルファの開発につながると期待している。

1. オルタナティブデータの分類について

本稿は、運用実務において投資判断につながるオルタナティブデータの整理に関して分類例を示

した後、中でも注目されるデータの一つのPOS (Point of sales) データに関して、個別企業の売上高予測に向けた活用に関するいくつかの事例を紹介する。そして、個別企業の株式リターンとの関係の実証的な検証を示す。近年、運用業界では



吉野 貴晶 (よしの たかあき)

ニッセイアセットマネジメント 投資工学開発センター長。投資工学開発部 部長。筑波大学大学院博士課程修了 (システムズ・マネジメント博士)。情報・システム研究機構統計数理研究所リスク解析戦略研究センター客員教授。青山学院大学大学院国際マネジメント研究科 (青山ビジネススクール) 客員教授。日本金融・証券計量・工学学会 (JAFEE) 理事。日本ファイナンス学会理事。著書に、『株式投資のための定量分析入門』(日本経済新聞社、2003年) など。



山本 裕大 (やまもと ゆうだい)

ニッセイアセットマネジメント 投資工学開発部 シニア・ファイナンシャル・エンジニア。北里大学大学院薬学研究科修士課程修了。製薬関連会社を経て、2019年ニッセイアセットマネジメント入社。オルタナティブデータや機械学習を用いた新規投資戦略の研究・開発を担当。